







(共同利用掛 電(内)2256)

◇ 交換回線用 T S S 端末について (II)

センターニュース 版 145 でお知らせした交換回線用 T S S 端末のうち、F A C O M 1 5 1 2 A とそれ以外の機種とでは、データ伝送制御手順が異なり、富士通では、前者を F A C O M 1 5 1 0 手順、後者を T T Y 手順とよんでいます。この2つの手順を混在させるためには、センター側の T S S 用電話番号を F A C O M 1 5 1 0 手順用と T T Y 手順用とに分ける必要があります。しかし、電話回線を2つのグループに分割することは、回線の使用効率の点で問題があり、また、T T Y 手順の端末の方は、他の大型計算機センターや G E M A R K 一Ⅲのような商用 T S S センターの端末としても共用できるため、センターとしては T T Y 手順の方に統一したいと考えています。そこで、F A C O M 1 5 1 2 A を交換回線用端末として使用することをご計画中の利用者は、センター共同利用掛までご一報ください。F A C O M 1 5 1 2 A は専用回線用端末としても使用できますが、専用回線(200ビット/秒)の方は、F A C O M 1 5 1 0 手順をサポートしますので、この場合は問題ありません。

さらに、富士通でも、まもなく F A C O M 1 5 1 3 というカプラ内蔵型ポータブルタイプの端末を製造する予定ですが、これには T T Y 手順のものがあります。

さて、電話の雑音による交換回線用端末の誤字、抜字の問題ですが、これには音響カプラの感度も相当影響するようで、感度が高すぎると、文字誤り率が大きくなるようなので音響カプラの選択にも十分ご注意ください。

最後に、№145の本文および表1に“特定回線C1規格”とあるのは“特定回線C2規格”の間違いですので訂正します。また、図1中“FACOM-190 TSS”は“FACOM M-190 TSS”の間違いです。さらに、表3では松下電器産業の電話番号、Tektronix 4051の価格に誤りがあり、TI社製Silentシリーズの価格はその後すこし安くなっていますが、表3については、訂正、変更したものが、広報VOL.10、№3別冊新システム特別号の付表7として掲載されていますので、そちらをみてください。

(共同利用掛 電(内)2256)